

## 草の根技術協力（草の根協力支援型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	インド国
2. 案件名	クリーン・インド推進に資する「掃除教育プログラム」の開発手法の技術移転・定着支援事業
3. 事業の背景と必要性	<p>商業都市ムンバイ北東にあるビワンディ市の1人当たりの年間平均所得は約37万円と低く、多くの方は上下水道インフラが未整備なスラム街に居住する。同市では、公共空間に生活ごみが捨てられ、その匂いなどにより公衆衛生環境は劣悪である。</p> <p>国立大学法人九州大学は2019年末までに、公共空間でポイ捨てしないといった予防行動の大切さを小学校の「生徒」に実感させることで、「自分事」に変えることを企図した「掃除教育プログラム」を、公立小学校の「環境」科目の一環として実施した。他方で、その後同プログラムは現地で定着しておらず、要因として学校関係者のオーナーシップの不足や、活動継続のための教材やカリキュラムが不十分であることが考えられる。よって本事業では、「掃除教育プログラム」が現地で継続的に取り組まれるよう、学校関係者の活動への動機づけ及び教材の開発とその技術移転を行う。</p>
4. プロジェクト目標	「掃除教育プログラム」を対象小学校に定着させ、ビワンディ市の他の小学校にも普及させるための中核となるカウンターパートが養成される。
5. 対象地域	マハーラーシュトラ州ターナー地方ビワンディ郡クヘ村及び周辺地域 対象小学校：マハーラーシュトラ州ターナー地方ビワンディ郡クヘ村 公立小学校
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	<p>直接受益者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンターパート機関（現地 NGO SAI(Social Activities Integration)）：2名</li> <li>・協力機関（現地 NGO Bharatiya Mahila Federation (Thane Samiti)）：2名</li> <li>・ビワンディ郡の対象公立小学校教職員：約5名</li> <li>及び5-7年生の生徒：約30名</li> </ul> <p>間接受益者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象校生徒家族・近隣住民：約300名</li> <li>・郡内行政担当者：約3名、郡内他校教職員：約50名</li> </ul>
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<p>&lt;アウトプット&gt;</p> <p>成果1：カウンターパートへのデザイン技術移転</p> <p>成果2：管理者動機付け</p> <p>成果3：掃除教育指導法確立</p> <p>成果4：普及支援・広報活動</p> <p>&lt;活動&gt;</p> <p>活動 1-1：座学：デザインの基本サイクル（着想・発案・実現）とエモーショナルデザイン（本能・行動・内省）の基礎を解説する。</p> <p>活動 1-2：演習：「ゴミの分別」をテーマとして、デザインの基本サイクルに従い、エモーショナルデザインの各観点から教材開発する。</p>

	<p>活動 1-3：視察：日本の「デザイン教育」や「掃除の時間・ゴミの分別」を視察するため、本邦デザイン教育現場や公立小学校を訪問する。</p> <p>活動 1-4：OJT：「マラーティー語を教育につかう公立小学校（KUHE）」を対象として掃除教育プログラムの最適化を実施する。</p> <p>活動 2-1：「管理者（校長）養成研修」において、「小学校前にゴミが散乱しない綺麗な街路空間のイメージ」を提供する等、エモーショナルデザインの観点を入れた研修実施を支援する。</p> <p>活動 2-2：管理者（校長）と本邦公立小学校校長経験者が参加する「掃除教育情報交換会 A」開催を支援する。</p> <p>活動 2-3：管理者（校長）によるカリキュラム構築ワークショップ開催を支援する。</p> <p>活動 2-4：掃除教育の学習成果を確認する。</p> <p>活動 3-1：「指導員（教員）養成研修」において、「小学校敷地にゴミが散乱しない安全な学習環境のイメージ」を提供する等、エモーショナルデザインの観点を入れた研修実施を支援する。</p> <p>活動 3-2：指導員（教員）と本邦公立学校教員経験者が参加する「掃除教育情報交換会 B」開催を支援する。</p> <p>活動 3-3：指導員（教員）による「担任クラスの運営方針・シラバス構築ワークショップ」開催を支援する。</p> <p>活動 3-4：対象公立小学校における掃除教育プログラムの実施を支援する。</p> <p>活動 4-1：カウンターパートと共同で「成果報告書」を作成する。</p> <p>活動 4-2：ビワンディ市の公立小学校校長を対象に「掃除教育プログラム活用事例報告会」を開催（多文化カリキュラムマネジメントの導入）する。</p> <p>活動 4-3：日本において、小中学校の生徒を対象とした「インドにおける掃除教育プログラム活用事例報告会」を開催する。</p> <p>活動 4-4：高校や大学の教員・学生を対象とした「JICA 草の根技術協力事業（草の根協力支援型）を活用した国際貢献事業の報告会」を開催する。</p>
8. 実施期間	2025年 3月 ～ 2028年 2月（2年 11ヵ月）
9. 事業費概算額	9,976 千円
10. 相手国側実施機関 （カウンターパート）	・カウンターパート：現地 NGO SAI(Social Activities Integration) ・協力機関：現地 NGO Bharatiya Mahila Federation (Thane Samiti)
<b>II. 団体の概要</b>	
1. 実施団体／指定団体	国立大学法人九州大学大学院芸術工学研究院 迫坪研究室
2. 主な活動内容	「技術の人間化」を目的に、技術を人間生活に適切に利用するための道筋を設計する 「高次のデザイナー」を養成する教育・研究活動